

“ 暗い夜 ” との訣別、そして……



同窓会長 丸岡 武

私は昭和8年11月、吹田に生まれ、千里第一小学校を経て旧制茨木中学校に入学したが、2年生の時に父が亡くなって、四国の叔父に預けられたものの舞い戻って吹田二中を卒業した。同時に運送大手のN社へ就職し、春日丘高校定時制(吹田分校)に入った。3年間通学したところ最後の1年は吹田高校定時制課程だった。卒業した関西大学の本部は千里山だから、教育は全て吹田で修了したことになる。しかも小・中・春日丘吹田分校ともに同一の校舎であり、私の通学路も同一であった。

住まいと学校のあった一帯は片山の地名どおり、少し足を伸ばすとれんげ畑、山池の魚釣り、果物狩りなど牧歌的な風物詩に恵まれていた。私の抒情の原風景は登下校の折節に培われたといってもいい。

しかし戦争と敗戦。さらに父の死によって“暗い夜”は始まった。二中時代の新聞配達では、朝の暗闇の山犬が恐かったが、月給は300円だった。

N社では仲仕の給料を計算する労務係に配属されたが、下社して吹田駅に降り立つと、登校というよりは帰宅する感覚で、つい地元の誰彼に頼ることが多く、授業欠席の理由にこと欠かなかった。教室へ出ても同年といえば4名の女性だけで、あとは25～30歳、年長者は40歳の計14名の構成だったから、友人と呼べるものはなかったのである。

そんな所へ、新設の吹田高校への強制的移転の話が出た。通学距離は私の場合で倍以上に伸びた。しかも暗く不慣れた夜道である。交渉相手となる人は、二中校長兼務の岩城國武教頭で、私にとっては茨中(生物担当)、二中(校長)を通じての恩師だったから、対決とはいかない。お蔭で移転賛成派の頭目として在校生の怨嗟的だった。当時、岩城先生の愛娘はヨルに在学中であり、長男は普通科3年生だった。その第1回卒業生を出すのに合わせて、私たちの移転がなされたわけである。

この新設校での一年は、さすがの私も気合が入ったといってもいい。それまでしづしづの登校だったのだが、吹田高校定時制としての歴史の第一歩を刻んでおかなければならないと思ひ込んだのである。“暗い夜”との訣別でもあった。

文化祭や弁論大会の開催、演劇部、柔道部の創設、リレー小説の創作など思いつくもの、出来ることから始めたが、いずれも小さな教室に観客の在校生を詰め込んでの発表だった。卒業式だって教室だったのだから無理もない。机や椅子を出したり入れたり、よくもまあお互いに動いたものだが、その代り一年はすぐ過ぎてしまった。

最後のしめくりは、当時の古川先生とともに仕上げた同窓会おとり会の会則であったが、各クラブとともにその成長の初期を見守るもなにも、自らの大学生活にかこつけて、年々の主事先生まかせの惰性で来てしまったのは慙愧に耐えないし、歴年の諸先生方に伏して御礼とお詫びを申しあげる次第です。

もっとも、関西大学卒業と同時に校友会の執行役員に選ばれ、校友会再構築のために微力を捧げる日々が続き、その経験から、少ない終身会費を総会連絡などで消費するのも惜しいという配慮が働き、同時に私学と違う運営のむつかしさを痛感していたことも事実である。

いずれにしても、行政の都合で吹田高校定時制課程は消え、私たちの履歴に残るのみとなったわけだが、どんなカタチで同窓会を続けるのか、これまたむつかしいものがある。私自身は私なりの責任感でこの56年、母校とつながって来たが年齢的にももはやアトがない。いいチエを渴望しているところである。

末筆ながら、本式典に当たり、記念講演をお引き受けくださった西川きよし先生に謹んで御礼申し上げます。

関西大学、吹田高校定時制と共に同窓である園田実氏のご縁があったとはいえ、ご多忙のところにもかかわらず曲げてご来駕賜りましたことは洵に有り難く、何もしてこなかった私にとりまして、これ以上の喜びはございません。関係各位を代表して重ねて厚く御礼申し上げます。

一人ひとりが大切にされる事と定時制課程そして吹高定時制



教育後援会会長 岡田 憲明

今という時代は、「改めて全体の利益が叫ばれ、個性を求めてのゆとり教育が駄目だった。国からの道徳教育を求める。」このような風潮になっていると感じています。蛇行しながら時には逆行しながら、積み重なっていく人類の歴史から見ると、この事は時として必然なのかもしれません。

話が変わりますが、私の息子は小・中学校と長期の不登校生でした。しかし、ご縁あって吹田高校定時制課程に入学し卒業させていただき、今では大学に通っています。息子は、吹高定時制で自我の回復を果たし大人となる時間を持つことが出来ました。そこには、先生との出会いと学校生活というリズム、校友との交流など大切な時の流れがあったことだと思います。

全体の利益や道徳の重要性は、一人ひとりが「大切にされる」社会の積み重ねの中で実現することなのではないでしょうか。自身の事を大切にされなかった人に、「他人を愛する事」は難しい。わが息子が吹高定時制で大切にされ豊かな時間を持てたこと、この事は、吹高定時制だけではなく定時制課程という制度自身が持ち合わせた豊かさなのかもしれません。人間らしさが維持され再生産される「豊かな時間の流れ」この事を社会のさまざまなところに制度として作ることが、全体の利益すなわち公共性と道徳豊かな社会をつくることになるのだと思います。私は、今回の吹田高校定時制課程を閉ざす事は、個人の思い出としても残念ですし、社会の営みとしても心苦しいものがあります。今般、資料集のご挨拶を記すにおいて、吹高定時制の歴史に感謝しその意義多きことを、ささやかにとどめます。「ありがとう吹田高校定時制課程」卒業生の思い出とともに。

4年間、本当にありがとうございました



生徒会会長 矢吹 理沙

2003年の春、私はこの学校に入学しました。入学当初は色々不安な気持ちでいっぱいだったけど、通うにつれ友達が出来たり、一つ上の学年に入学前から知っている子がいたりして、そんな気持ちはなくなりました。定時制という所はお年寄りや、私より年上の人ばかりかと思っていましたが、そんなに年の離れた子はおらず、寧ろ年齢の近い子ばかりで驚きました。

学校生活の中で私は、生徒会活動に取り組んだり、インターンシップに参加したりと、色々な事にチャレンジしてみました。生徒会の活動で思い出深いのは、ボランティア活動をした事と、演劇をした事です。演劇は、凄く緊張して、頭が真っ白になったり大変だったけど、今ではいい思い出になりました。

インターンシップでは、子供が好きなこともあり保育園の先生体験をさせていただきました。一緒に遊んだり、本を読んだり、寝かせたり、また先生方のお手伝いもさせていただきました。その後、夏祭りにも呼んで下さいました。たった3日間だったけど、この3日間は私にとって、凄く貴重な3日間になり同時にそういうお仕事に就きたいと思うようになりました。4年生になった今、私が卒業する番なのかと思うとさびしいです。

この学校に来て4年間、色々な経験や体験等をして、私は少なからず変わった所があります。私は中学校にあまり行きませんでした。でも高校に入学してからは友達もでき、先生方ともよく話し、前よりも明るくなったと思います。勉強のこと、その他にもたくさんを知ることができました。それは、これから先、社会に出てプラスになる事だと思っています。4年間通って得た人間関係やここで得た知識は卒業しても忘れません。私達が卒業すると同時に“大阪府立吹田高等学校定時制”は閉課程になります。もう、遊びに行けないのかと凄く残念です。

学校を卒業した後、私は大学に進学します。前にも書きましたが、3日間体験したインターンシップで、保育士になりたいという夢が出来たからです。これから先、何があるかわからないですが、学校で学んできたことを思い出して、頑張っていきたいと思っています。最後になりますが、4年間、本当に楽しかったです。有難うございました。